

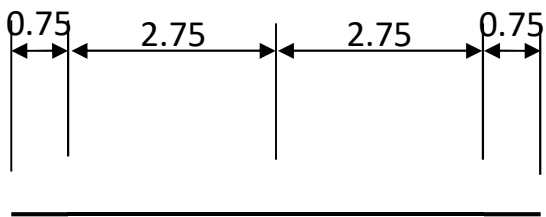
道路事業事前評価調書

路線・河川等名		(主) 舞鶴綾部福知山線 (川北)	事業名	防災・安全対策事業	補助・単独の別	補助
事業主体		京 都 府	事業箇所(区間)	福知山市川北 地内		
事業概要	目的	<p>主要地方道舞鶴綾部福知山線は舞鶴市公文名を起点とし福知山市猪崎に至る延長約35kmの準幹線道路で、京都府の中丹地域を結ぶ重要な路線である。</p> <p>当該箇所周辺は人家連担地域であり、また、京都府立中丹支援学校及び福知山市立日新中学校への通学路となっているが、歩道等が未整備で歩行者等と車両とが輻輳し、非常に危険な状態となっている。</p> <p>そのため、歩道等を整備することにより安全な歩行空間を確保するものである。</p>				
	内容	<p>整備延長：L=500m 計画幅員：W=6.0 (9.75) m 2車線 歩道等：片側2.5m 事業費：約3億円</p>				
	上位計画等	<p>京都府総合計画 福知山市通学路交通安全プログラム</p>				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車交通量9,698台/日 (H27センサス) ○自転車交通量 60台/12h (")※今回事業箇所の近接地点での数値 ○歩行者交通量 7人/12h (")※" ○歩道等が未整備のため歩行者等は路肩を通行しており、安全で円滑な通行ができない状況。 ○福知山市通学路交通安全プログラムの要対策箇所に位置付けられていることから、早期の整備が求められている。 				
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<ul style="list-style-type: none"> ○幅2.5mの歩道等の整備により、通学路における歩行者等の安全確保及び円滑な自動車交通を確保する。 				
事業の効率性等	コスト削減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・	<ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリー構造の歩道等を整備し、歩行者等の交通環境が改善される。 ○歩行者等と車両を分離することで、交通の円滑化が図られる。 ○二次製品を積極的に使用しコスト削減を図る。 				
総合評価		<p>本事業は、歩行者等の安全性の向上を図るために、新規着手の必要がある。</p>				

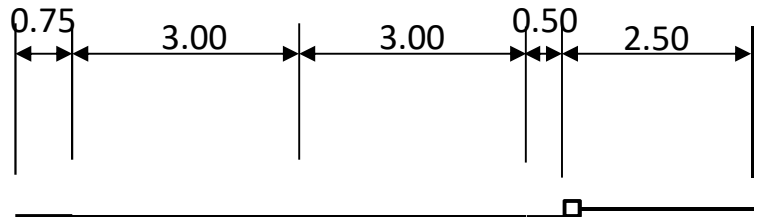
【位置図】



【標準断面図(改良前)】



【標準断面図(改良後)】



【現況写真】



『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和2年 3月27日
作成部署	建設交通部道路管理課

事業名	(主)舞鶴綾部福知山線 防災・安全交付金事業	地区名	福知山市川北地内
概算事業費	約3億円	事業期間	令和2年度～
事業概要	歩道等整備 L=500m W=6.0 (9.75) m		
目指すべき環境像	主要地方道 舞鶴綾部福知山線(川北)は、歩道等が未整備であることから、歩行者が車両と輻輳し、非常に危険な状態となっている。 福知山市通学路交通安全プログラムに基づき、歩道等の整備を行うことにより、円滑な車両交通の確保と安全な通行空間を確保するものである。		
関連する公共事業			

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		当該地は、由良川と山に囲まれた自然豊かな箇所であるため、これら自然環境の維持・保全が必要となる。 由良川流域において、指定希少野生生物の生息が確認されている。	地形改変を最小限に留めることで、自然環境の維持・保全に努める。 野生生物の個体の生息又は生育の環境への最小限となるよう配慮する。	3
	地形・地質	○			
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種	○			
	生態系				
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	当該地は通学路交通安全プログラムの対象箇所であるが、歩道等が未整備であり、安全な通行空間を確保する必要がある。 事業実施に伴い騒音・振動が予測される。	バリアフリー構造の歩道等を設置し、誰もが安全に通行できるよう歩道等を整備する。 早朝、夜間の工事を極力避けるとともに、低振動、低騒音の建設機械を積極的に使用する。	5
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			
	廃棄物・リサイクル				
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	当該地は、由良川と山に囲まれた自然豊かな景観であるため、その保全が必要となる。	地形改変を最小限に留めることで、景観の保全に努める。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働				
	その他				
外部評価					